椙山歴史文化館ニュース

Vol.２３

2020.12.9

思い出の寄贈品でつくる歴史文化館

歴史文化館長　椙山美恵子

歴史文化館は寄贈品で作られています。開館は平成21（2009）年。学園創設者正弌・今子先生の孫である椙山正弘前学園長から、多くの寄贈品を受けてスタートしました。それ以前にも卒業生からの寄贈品が保管されていましたが、開館以降はさらに広い範囲から寄せられています。今後とも関係の方々のご協力をいただければ幸いです。

最近、本校卒業生（加藤五江さん・令和2年2月逝去）の娘さんから、お母さんの遺品の寄贈がありました。左の写真は昭和25年の創設者夫妻宅で、真ん中の二人はご夫妻、右端は孫の椙山正弘前学園長（平成31年1月逝去）、左端が加藤五江さんです。娘さんからは祖父・加藤清松さん（昭和22年から昭和39年まで用務員として学園に勤務）、祖母（一時期、今子先生の家事を手伝った）の思い出話も伺うことができました。

寄贈させていただくにあたって

加藤奈美江

本年2月、私の母が他界しました。母は昭和16年に椙山女子専門学校附属高等女学校に入学し、昭和20年に同校を卒業しました。母が在籍していた頃は戦争の真っ最中。母が残した写真の中に、「昭和19年3月三菱電機動員中、休暇で犬山に遊びに行き、橋の下で写す」と裏書きされたものがありました。写真に写っているのは母を含めた女学生9名。上はセーラー服、下はもんぺという姿です。大変な時代であったと思いますが、その中でも精いっぱい青春を謳歌していたのだと思います。お友達から寄せられたサイン帳も残されており、母にとっては大切な思い出だったのでしょう。お友達との交流は卒業後もずっと続いていたようで、同窓会の写真もたくさん残されていました。また、私の祖父は椙山女学園で雑務を行う仕事をしていました。さらに、祖母は、椙山家がご近所ということもあり、家事など今子先生のお手伝いをさせていただいていました。そんな関係で、母も時々椙山家にお邪魔していたようです。

そのように、椙山家とは祖父母の代から大変ご縁があることもあり、母の遺品の整理を進める中で、椙山家及び女学校に関するさまざまなものが出てきました。

私は、祖父母や母が椙山家に出入りさせていただいていたということは知ってはいましたが、具体的な記憶はほとんどありません。ただ、祖父母や母の会話の端々から、椙山家の皆様に対して尊敬の念と親愛の情を抱いていたであろうことは感じていました。

この度、寄贈させていただくにあたり、初めて歴史文化館を拝見させていただきました。そこに展示されている資料を見ていくうちに、かすかに蘇る記憶がありました。

祖父は、現大学のある星が丘の土地の整地が終わった頃、幼かった私を連れてきて、「ここに学校ができる」と話してくれました。ただただ広いだけの空き地で、周辺にはまだ何もなく、寂しいところでした。

正弐記念室を拝見したときは、なぜか懐かしい感覚を覚えました。かつて祖父母が健在だった頃の我が家を見ているような気がしたのです。当然祖母は、記念室が椙山家の一室であったときに出入りさせていただいていたはずです。そこで目にしたお人形、壺、茶道具等々は、戦後の荒廃した時代にあって、きっと文化の香りがしたに違いありません。祖母や母は、それを手本として我が家の生活に取り入れていったのではないか。だから懐かしさを覚えたのではないか。そんな気がしました。

前列左端：加藤五江さん

祖母は、今子先生から自作の足袋を何足かいただいたことがあったようです。その足袋のうち未使用のものを、祖母が他界した後、母がこちらの歴史文化館に寄贈させていただいていたということも今回初めて知りました。

100年以上の歴史を有する椙山女学園に、その歴史と文化を紹介する歴史文化館があるのはすばらしいことだと思っています。

母の遺品が少しでも歴史文化館のお役に立てば、私にとっても、また亡き祖父母や母にとっても、この上ない喜びだと思います。最後に、椙山女学園のさらなるご発展を心より祈念いたします。

卒業生遺族の手紙から

2020（令和2）年は、第2次世界大戦（太平洋戦争）終戦から75年になります。戦争中は、椙山女学園も校舎が軍需工場となり、学徒動員で当時の愛知時計に勤務していた生徒18名と教員1名がアメリカ軍の爆撃に遭い犠牲となりました。

今回、昭和19年に椙山女子専門学校附属高等女学校を卒業し、愛知時計に就職した故鈴木妙子（旧姓：山田）さんのご遺族（ご息女）から寄せられた、当時の思い出の一部を要約してご紹介します。

愛知時計

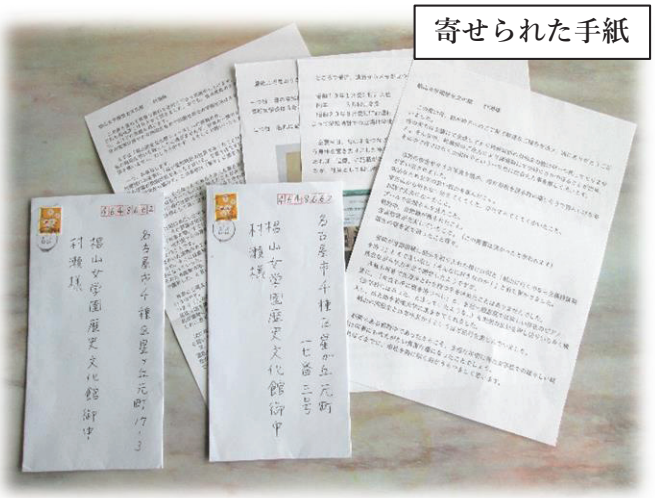
「・・・当時の校舎やクラス写真を眺め、母校を語る時の嬉しそうで誇らしげな母の姿が思い出されます。病弱なため空気の良い椙山を選び、覚王山からひたすら歩いたことで丈夫になった、プールで前畑さんを見た、戦時中金剛鐘が残された、音楽教育が充実していたなど、いろいろな思い出を語りました。洋裁も得意で、生涯糸と針を持つ手を休めたことはありませんでした。更に、「女性も手に職を持つべし」という考えを常に持っていました。

そんな母は、昭和19年1月に愛知時計に入社、同年3月に椙山を卒業（不思議なことです）、昭和20年9月に退社しました。愛知時計での立場は学徒ではなかったようです。昭和20年の爆撃の際は、愛知時計正門脇労務ビルの一階にいたため早く逃げ出す事が出来たと聞いています。

また、建物内の工場へ続く通用口は人一人が通れるだけの狭さだったため、通用口に殺到し外へ逃げ出す事が出来ず、多くの人がその場で爆死したとのことです。母は空襲当日、亡くなったであろう友人を置き去りにしてしまったことを非常に悔やんでいました。

戦後、同級生とは年中旅行を楽しんでいました。制限のある戦時中であったからこそ、多感な年頃に得た女学校での瑞々しい経験は何事にも代えがたい貴重な糧になったことでしょう。」

・・・



寄せられた手紙

第25回 あいち国際女性映画祭2020に出品されました

文化情報学部の栃窪ゼミ制作によるドキュメンタリー映像「金メダル以上の価値～前畑秀子のメッセージ～」が、9月5日、あいち国際女性映画祭2020（世界各国・地域の女性監督による作品、女性に着目した作品を集めた、国内唯一の国際女性映画祭）のフィルム・コンペティション（実写部門・アニメーション部門）のノミネート作品として上映されました。

この映像は、椙山女学園の卒業生であり、日本女性初の金メダリストである前畑秀子について、歴史文化館が所蔵する資料から、これまで知られていなかったことをドキュメンタリー映像として取り上げ、栃窪ゼミの学生が制作しました。制作にあたっては、数か月をかけて歴史文化館と栃窪ゼミの学生で資料の打合せを行い、構想を練りました。その後、歴史文化館や関係施設及び関係者などの撮影、映像の編集を経て、Ｙｏｕ　Ｔｕｂｅに映像が公開されました。

映像では、これまで人見絹江（日本女性として最初のメダリスト1928年　アムステルダムオリンピック）から大きな影響を受けたと推定されていましたが、前畑秀子の写真アルバムに「人見さん、姉の様に仲良しだった」という添え書きのある人見絹江の写真があったことを取り上げ、その親密さを証明しました。この映像は多くの方々が視聴し、好評を博しました。

【写真提供】（公財）あいち男女共同参加財団

◆ ◆ ◆ 「博物館実習」（学内実務実習）を行いました ◆ ◆ ◆

9月27日（火）大学で学芸員資格取得を目的とした博物館実習（学内実務実習）を行いました。今回は新型コロナウイルス対策のため、マンツーマンでの指導は行わず、できるだけ口頭での説明をわかりやすいように工夫して行いました。

前半は、主に自校史教育を担う学校博物館の意義について学んでいただきました。後半は、「歴史文化館」の仕事体験として、キャプション製作実習と翻刻実習を行いました。

キャプション製作実習では、展示品に添えるキャプション（説明板）について、予め準備しておいた紙原稿に合わせて、ハレパネ（片面はシールを剥がすと接着面が現れ、そこに原稿を貼り付けるもの）を切り出し、紙原稿を貼り付ける作業を行いました。ハレパネの切り出しは力が必要なため、うまく切り出せず四苦八苦する学生さんの姿もありました。

翻刻実習では、歴史文化館が所蔵する前畑秀子の自筆日記（金メダル受賞当日分）を読み解いて、原本どおりに活字を組む前段階として、鉛筆で原稿を作成する作業を行いました。旧漢字や旧仮名遣いなどが多く、学生は目を丸くして、必死で意味を捉えようとしていました。

新型コロナウイルス対策のため、遠隔授業ばかりであった学生さんは、久しぶりの対面授業ということもあり、椙山女学園の歴史について真剣に学ぶ姿が印象深い実習でした。

【寄贈品紹介】

○バイエル手芸教則本／和裁教科書（裁縫精義）（寺社下珠江氏寄贈）○卒業アルバム（昭和12年）（水野菊枝氏寄贈）○大阪万博記念品（Ｓ45高校の遠足での思い出）（浅井初江氏寄贈）○雑誌（クンストレースバイエル手芸教則本等17冊）／型紙（バーテントレース等17点）／マンドリン（大学マンドリンクラブで使用）（冨田明美氏寄贈）○写真（椙山正弌、学園関係33点）／冊子（「愛国百人一首」Ｓ17、「欧米の旅より」椙山藤子1962、「糸菊」Ｓ24・27）／印（椙山正弌　冨士塚町住所）／絵ハガキ（平和条約発効記念Ｓ27、改築校舎第一期竣工記念Ｓ32、大学竣工記念、その他）／椙山女学園大学竣工式次第（Ｓ37）／椙山女学園名簿（同窓会Ｓ27）／書簡類3点／賞状（珠算Ｓ16）／卒業証書（椙山女子専門学校附属高等女学校Ｓ20）／通知表（椙山女子専門学校附属高等女学校Ｓ16）／通信簿（椙山女子専門学校附属高等女学校）／ノート（サイン帖2点）／印刷物（ダンスのパターン図2点）／記念品（御針入　創立47年記念、日本手拭　創立75年記念）／バッチ（加藤奈美江氏寄贈）

【編集後記】

昨年度から開催している、企画展【裁縫雛形コレクション～椙山の小さな衣服たち～】は、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催期間を来年7月末までに延ばしました。ぜひ足を運んでいただければ幸いです。

椙山歴史文化館ニュース　第２３号
発行日　2020年（令和2年）12月9日
編集者・発行　椙山女学園歴史文化館
名古屋市千種区星が丘元町17番3号
TEL　052（781）1186（代）
052（781）4590（直）
編集担当者　椙山美恵子　村瀬輝恭　阿部亮子　安井有紀